

**医薬研究者の視点からみた道具としての統計学 改訂2版第1刷
正誤表**

このたびはご購入いただきまして誠に有難うございます。本書に誤りがございましたので、深くお詫び申し上げますとともに、下記のように訂正させていただきます。

2013年5月2日

訂正箇所	誤	正
p.37 図2-4	平均値±SD	平均値±2SD
p.60 14行目 《解析手順》1) 検定統計量, t値は・・・の2行下	推定値： 対になった標本の差, \bar{d}	推定値： 対になった標本の差の平均値, \bar{d}
p.70 7行目 ◇結果の出力 <等分散性の検定(ルービン検定)>	P=0.415	P=0.665
p.142 最後の行	$=y_i - b_0 + b_{ixi}$	$=y_i - b_0 - b_{ixi}$
p.188 2行目	≒15	≒14
p.188 3行目 結論	各群15例, 両群で30例の標本数が必要である.	各群14例, 両群で28例の標本数が必要である.
p.218 17行目	なぜ標本平均値の分散が $\sqrt{\frac{\sigma^2}{n}}$ (標準偏差は・・・	なぜ標本平均値の分散が $\frac{\sigma^2}{n}$ (標準偏差は・・・